

あなたが会社から電話をかけてくれたのは、昼食を終え椅子に座ってぼんやりと、窓の外を眺めていた時でした。小さな声で、

「あつ、俺だけど、裏の畑のコスモスがきれいに咲いているから見に行っておいで」
それだけ言つて、電話をきりましたね。

私はすぐ玄関へ行き、杖を持ち庭へ出ました。あなたは、足の治療を残したまま退院し、家の中に閉じこもっている私を気遣つてくれたのでしょうか。思えば、私の体の異常に気が付いてくれたのはあなたでした。病院へ行けと言ふあなたに耳も傾けず、あげくの果て、激痛に襲われすぐ入院、手術。足は間に合わず、私は一生杖を持つ身となりました。自分が悪いとわかっているのに、やり場のない私は、あなたにつらくあたつたりしましたね。でも、あなたは仕事で疲れて帰つてきても、私の着替えの手伝いや身の回りの世話をしてくれます。その度に心の中で、ごめんなさいと言つている私です。

佳 作
コスモス畑が見えてきました。紅、白、紫、濃い色合のコスモスがきれいに咲いて、

透き通る風に揺れています。田に囲まれた畑は一面、コスモスに覆われた小さな島のようです。私は真ん中に立つて、その美しさに見入っていました。いつも季節の訪れを私に感じさせてくれるのは、あなたです。あなたの優しさが、心に伝わって体中が温かくなつてきました。澄んだ空気を思いきり吸つて、ありがとうつて、何度も繰返し言いました。気がついたら私、いつも足が痛くなるからと歩くのを恐がつていたのに、ひとりでコスモス畑まで歩いてきていました。なんだか、心も体も軽くなつたみたいです。この気持ちを大切に忘れないようにします。

*会社からめつたに電話をかけてくることのない夫からの電話に驚きました。通勤する時、いつもコスモスを見ていて、私に見せたいと思つていたそうです。夫はすべてに優しい心を持っています。感謝の気持ちを手紙にしました。